

ホームページに業務とはまったく関係のないお散歩コーナーを作りました。普段、生活し、仕事をし、電車で、バスで、そして自分の足で移動しながら目にした風景、耳で聞いて話、肌で感じたこと等をお話してきたいと思います。私が暮らしながら仕事の拠点として、日々過ごす中目黒を中心に、季節とともに変わっていく町の様子を気ままに綴っていきます。コーナーはある思いがあって、どうしても目黒不動の話から始めることにします。

## 「納めの不動」[2010/12/17]

もう説明するまでもなく、目黒不動尊は何百年も前からの名所です。有名なところでは、ここで行われた富くじが江戸三富のひとつでした。谷中の護国山天王寺、湯島天満宮、目黒不動尊龍泉寺で行われた富くじをして「三富」と言うのですが、当時、江戸の中心地からは遠く離れた地と言って良い目黒です。谷中や湯島の大寺と一緒に扱われていることから、この界限はそうとう賑やかな場所だったのでしょう。目黒近辺では江戸時代に鷹狩りが行われてくから、たぶんこの周辺は畑や田んぼ、そしてその周りは荒れ野が広がっていて、そんななかで、富みくじ開催のおりには、この目黒不動尊の一角だけは庶民の歓声が響き渡っていたのでしょうね。

目黒不動尊は最寄りの駅は不動前駅になりますが、私がここを訪ねる時は中目黒駅から山手通りを走る東急バスに乗って不動尊参道で降りて、そこから歩くか、自宅からずっと歩いていくかです。自宅からだとゆっくり歩いて30分、バスに乗っても同じくらいの時間がかかります。毎月28日が縁日で出店が並びます。なかでも年末12月28日は納めの不動といって、賑わいはなかなかのものです。ここ何年かは私も納めの不動の日に参拝に行っています。

納めの不動の日の参拝は社労士会目黒支部の先輩方が以前から行っていたことで私もそこに加わったことになります。たくさんの人々が行き交う仁王門で午後4時に待ち合わせ、メンバーがそろったところで、境内を進み、けっこうきつい階段の男坂を昇って本堂に参拝、建物に沿って歩いて大日如来にも両手を合わせます。反対側を回って、本堂前から女坂を下り、仁王門まで戻ってお参りを終了します。この1年の無事を感謝し、新しく迎える年の安全を願います。普段は広く感じる境内ですが、出店が並び、多くの人が訪れているこの日は様子が違います。おいしそうな匂い、その匂いに誘われて出店で買い求めたものを口にする子供たちや家族連れ、会話がはずむご近所の集まり、狭い階段でも仲良く、並んで歩くご夫婦やカップル、それぞれが納めの不動を新しい年を迎える準備のひとつとして楽しんでいる感じです。私たちは参拝を終えた後はいつも場所を居酒屋に移して、もうひとつの納めの儀式を始めます。

いつもこの集りの主役は塚原弘先生でした。塚原先生の声のもと、集まって、線香のけむりと香りの中を人々の流れにのって、ゆっくり、小一時間かけて参拝しました。人々の様子と境内の雰囲気から「ああ年末だなあ。」と否応までも感じさせられます。参拝でもその後の居酒屋での納めでも塚原先生が先頭で引っ張ってってくれていたのですが、その塚原先生が今年の4月末のお亡くなりになりました。直前まで非常にお元気にしておられたので、大変驚きました。私が初めて、納めの不動に参加したとき、「田中さん、来てくれたのかい。」と言って喜んでくれたのが塚原先生です。今年の納めの不動からは塚原先生のいないお参りになってしまいました。

目黒不動尊の近くには有名な青木昆陽の墓があります。さつまいもの普及につとめ、甘蔗先生とされた方です。10月28日の縁日には甘蔗先生をしのんで甘蔗祭りが開かれます。私は今年の12月28日の納めの不動からは「塚原先生をしのんで」の気持ちをもって、参拝を続けていくことにします。楽しく飲んで騒ぐことが好きだった塚原先生ですから、賑やかに納めの儀式を続けていきたいと思っています。